

令和3年度 中国地区私立幼稚園教育研修会 中国5県研究発表会 岡山県発表資料  
「幼児が遊び込める環境構成と教師の援助を探る」

(指導助言者) 岡山大学院教育学研究科 特任教授  
岡山大学附属幼稚園  
園長 井山 房子先生

(発表者) 学校法人虫明学園 中仙道幼稚園  
教諭 富谷 知子  
教諭 大山 真実

### 研究テーマ設定の理由

本園の幼児の実態として、素直で優しい、自分のしたいことを伸び伸びと楽しめる、いろいろなことに興味をもって関わろうとする、友達や生き物(自然)に対して思いやりをもって接することができる、などの姿が見られる反面、きっかけがないと遊べない、目的がもちにくい、遊びに対して受け身、遊びの面白さに気づきにくい、遊びが継続しにくいなどの姿も見られた。また、教師は遊びをどう捉え、どこまで、どのように遊びに関わればよいのか、幼児よりも遊びに関わり過ぎたり、出過ぎたりしてはいないかなどの悩みを抱えていた。

そこで、研究テーマとして「幼児が遊び込める環境構成と教師の援助を探る」と設定し、遊びの充実を図り、幼児が心から楽しみ遊び込む幼児の姿を求め、研究を進めていくことにした。

### 研究方法と内容

#### (1) 遊び込む姿の共有、環境構成と教師の援助の仮説を立てる

学年ごとに「遊び込む」姿をどう捉えるか話し合うことで共有し、その姿を目指す為の環境構成と教師の援助についての仮説を立てる。

#### (2) エピソード記録から読み解く

仮説を意識しながら日々保育実践を行う中で遊び込む姿が見られたエピソード記録(実践事例)をとる。その記録を基に、学年や全体で事例検討を行う。その際、付箋に各自の考えを書いて一人一人の意見が集まるようにした。

#### (3) 仮説を立証する

事例検討から仮説を立証したり新たな要因を探ったりする。

### 遊び込む姿の共有と環境構成・教師の援助の仮説

#### <3歳児の遊び込む姿>

##### 興味をもつ

- ・いろいろな遊びをしてみようとする姿
- ・様々な遊びに興味をもつ姿
- ・傍観しながら遊びに参加する姿

##### してみたいと感じる

- ・自分から遊びに関わってみる姿
- ・自分なりに遊んでみる姿
- ・自分から人に関わってみる姿

##### 好きな遊びを見付ける

- ・したい遊びを見付けて遊ぶ姿
- ・好きな場や道具を見付けて遊ぶ姿
- ・落ち着ける場所を見付けて遊ぶ姿

##### 繰り返し遊ぶ

- ・繰り返し遊ぶ姿
- ・楽しかった経験を思い出して遊ぶ姿

姿に対する○環境構成☆教師の援助(仮説)

○安心できる環境  
☆ありのままの姿を受け止める  
☆信頼関係を築く

○してみたいと思えるような環境  
☆幼児の思いを受け止める  
☆内面理解をする

☆一緒に遊びを楽しむ

○幼児の興味に沿った環境  
○興味をもつことができる環境  
☆遊ぶ時間の確保

<4 歳児の遊び込む姿>

興味・好奇心

- ・自分からいろいろなことに興味をもっている姿
- ・なぜ？何？と疑問をもつ姿

してみようとする

- ・自分がしたいことを選んでする姿
- ・自分からいろいろなことをしてみようとする姿

繰り返し遊ぶ

- ・試したり工夫したりして遊びを展開していく姿
- ・夢中になって遊ぶ姿
- ・繰り返し遊ぶ中でいろいろなことに気付く姿

主体的

- ・自分から進んで遊びに取り組む姿

姿に対する○環境構成☆教師の援助(仮説)

- 幼児が興味をもっていることを取り入れた環境
- 幼児の興味に合わせて、環境を再構成していく
- ☆幼児の思いを受け止め見守る
- ☆教師も一緒に遊びを楽しむ
- ☆幼児の思いに寄り添い、共感したり提案したりする
- ☆遊びの振り返りをする時間をもつ

- 自由に遊びを選ぶことができる環境
- いろいろな遊びを経験できる環境
- ☆遊び込める時間の確保

- 遊びを引き続き楽しめる環境
- 試したり工夫したりできる用具や材料の準備をする
- ☆繰り返し遊ぶことができる時間や場所の確保

- 興味をより深められる環境(図鑑や絵本など)
- ☆幼児の思いに共感する

<5 歳児の遊び込む姿>

興味・好奇心

- ・なぜ？何？と興味や関心をもつ姿
- ・好奇心をもって自分から関わる姿

目的をもつ

- ・自分なりに目的をもって遊ぶ姿

試行錯誤

- ・いろいろな方法で、繰り返し試したり工夫したりしながら遊ぶ姿

持続

- ・夢中になって遊ぶ姿
- ・一つの遊びが継続する姿
- ・途中で諦めずにし続ける姿

人との関わり

- ・友達と思いを伝え合う姿
- ・友達と協力する姿
- ・友達と一緒に遊びを発展させていく姿

主体的

- ・自分のしたいことに自信をもって取り組む姿
- ・自分の思いを伸び伸びと表現する姿

姿に対する○環境構成☆教師の援助(仮説)

- 幼児の目に入りやすい遊びの場の設定
- 視覚的な刺激となる環境(絵本や写真など)

- ☆クラスで遊びの話題の共有、話し合いをする

- 選択できる用具、材料の用意
- 道具や空間を自由に使える環境

- ☆一緒に考えたり、考えるためのヒントをタイミングよく出したりする

- 友達と協力し合える材料の大きさや数の準備
- ☆教師も友達の一員となって一緒に遊ぶ

- したいことが自由にできる環境
- ☆幼児に任せる
- ☆幼児の思いに寄り添う
- ☆自由に思いを出したり、表現したりできる空間、雰囲気を作る

## 実践事例・考察

3 歳児 『泥遊び～ぺたぺたがりがり～』

4 歳児 『本物みたいなシャワーにしたいの！』

5 歳児 『ドングリレーシングカーで遊ぼう！』

### 幼児が遊び込んでいる要因

(3歳児)

○仮説に繋がる環境
・気に入った道具や場所を見付け、安心できる環境 ・興味をもつことができる環境 ・してみたいと思えるような環境 ・幼児の興味に沿った環境
●環境の新たな要因
・一人一人が満足できる豊富な材料や道具の環境 ・道具や材料を自分で選んで試みることができる環境 ・引き続き遊ぶことができるように思い出すきっかけとなるような目に付く環境 ・発達や季節に合った環境 ・感触や性質の違いに気付けるような環境 ・異年齢児から刺激を受けたり関わったりすることができる環境 ・幼児が偶発的に出会う場、機会 ・次の展開を見通した環境を再構成 ・発見したり不思議に思ったりする感情体験のできる場や物
☆仮説に繋がる教師の援助
・幼児の興味や関心を探り、教師も一緒に遊ぶ(幼児と同じ動きで遊びを楽しむ) ・幼児の気付いたことや興味をもったことに共感する ・言葉が少ない分、表情や動きから興味や関心、心情を見取っていく ・気付いたことや思ったことを受け止める ・自分のしたいことをじっくり取り組むことができる時間を確保する
★新たに捉えた教師の援助
・クラスで遊びの紹介をし、興味をもてるようにする ・周りの幼児がしていることに関心をもてるようにする

(4歳児)

○仮説に繋がる環境構成
・自由に遊びを選択することができる環境 ・幼児が自分で扱える用具や素材の準備(布ガムテープ・平らで薄いビニール紐・段ボールなど) ・幼児がイメージをもちやすい絵本や図鑑を準備(紙に書いてイメージしやすくするなど) ・幼児の実態に合わせて環境を変えていく(環境の再構成)
●環境の新たな要因
・異年齢児(年長児)の姿から刺激を受ける場、機会 ・目に付きやすい場所に環境を用意する ・必要な時に手に取りやすい素材・用具の準備 ・幼児が自分達で遊びの場を作れるような環境 ・幼児が作った遊びの場を使いやすいように整える ・遊びが継続できるような環境の配置
☆仮説に繋がる教師の援助
・幼児の思いに共感する(思いを受け止める) ・幼児が遊ぶ姿を見守ったり一緒に遊びを楽しんだりする ・遊びの実態に合わせて一緒に考えたり提案したりする ・クラスで遊びの振り返りをする(友達に伝えることで遊びの再体験をする、友達からの刺激で興味を広げる)
★新たに捉えた教師の援助
・状況を言葉にして説明することで、幼児が自分でしていることを再認識したり、考えるきっかけとなるようにしたりする ・幼児の姿や遊びを通し幼児理解を深め、友達同士を繋げる

(5歳児)

○仮説に繋がる環境構成
・目に付きやすい場所に環境を用意する ・幼児の興味に合わせて関連する絵本を読んだり、置いておいたりする ・自分で選択できる環境、自分達で考えて工夫できる教材(材料)の出し方 ・自由に使える環境、用具(積み木やフープなど) ・思ったことをすぐに試すことができる環境、用具の用意
●環境の新たな要因
・教師が携わらなくても、幼児が自分で扱いやすい用具、材料の準備 ・幼児の実態に合わせ、願いに沿った環境の再構成 ・遊びと遊びが繋がる為の場の配置 ・友達からの刺激が受けられるように、作った物を置く場所 ・遊びが継続できるような環境の設置
☆仮説に繋がる教師の援助
・クラスで遊びの話題を共有する、振り返りをする ・教師も友達の一員となって一緒に遊ぶ ・自分達で考えたことや思いが伸び伸びと実現できる場や雰囲気作りをする (=幼児の発想に共感したり、気づきや思いをしっかりと受け止めたり、認めたりしていく) ・幼児がしたい思いを実現できるように、幼児の思いに寄り添い一緒に考える、ヒントとなるものを提案する、手助けをするなどして支える
★新たに捉えた教師の援助
・教師と一緒に(製作物などを)作ることで、きっかけ作りとなるようにする ・状況を言葉にして説明することで、幼児が自分でしていることを再認識したり、考えるきっかけとなるようにしたりする

## 研究成果

### ○幼児の変化

<3歳児>

繰り返し遊ぶ姿、自分からしてみたい、こうしたいと思いを出しながら遊ぶ姿が増えた。

<4歳児>

遊びを繰り返し楽しむようになったり、友達と関わりながら楽しんだりする姿が増えた。

<5歳児>

自分達で遊び方を考えたり、してみようとしていたりする姿が増えた。

### ○園内研修(研究)を通して、教師自身の保育に対する考え方や気持ちの変化

・幼児の言葉や表情、行動に対して、興味や関心、気持ちや内面を教師がどう読み取り、どう捉えるかが大切だということが分かり、まずは幼児の願い(こうしたいという思い)を意識して探っていくようになった。

・幼児の姿から指導計画をしっかりと立て、幼児に何を体験させたいのか教師がしっかりと願い(ねらい)をもって関わるのが大切だと分かった。そして保育を振り返り、環境を再構成していく大切さを改めて感じた。

・遊びを援助する際に、教師の思いが出過ぎていないかと迷い、援助のタイミングを逃してしまうこともあった。しかし、その時に考えた援助を実践し、目の前の幼児の姿の変化を観察したり、援助を振り返り、反省や修正をしたりしていけばよいのだということが分かり、以前よりも幼児との関わりを楽しみながら保育ができるようになった。

## 今後の課題

研究を通して、幼児が遊び込む為の環境構成と援助を探るにあたって、まずは幼児理解をすることの大切さを改めて感じると同時に、読み取りの難しさも感じている。幼児の言動に対して教師がどう読み取り、どう捉えるかによって、援助の仕方も変わってくると考える。その為、今後も記録をとり、その積み重ねから理解を深めたり、教師間で情報を出し合い多くの目で捉えたり、写真やビデオでの記録を活用したりするなどして、様々な方法、角度から幼児理解について深めていきたい。そして、これからも楽しんで保育を行いながら、幼稚園全体で組織的、計画的に専門性を高めていきたい。